

# ゆづける



JALSA-miyagi

9号

2007年9月



12	10	9	8	6	5	4	2	1
菅英三子さんチャリティーコンサート	東北大学での講義 和川次男・はつみ	心も体もポツカポカ、安全第一 訪問入浴 アサヒサンクリン 看護師 佐藤由美子	ALSに携って私の思うこと 訪問介護ステーションまめしば ホームヘルパー 荒木久美	残照 行雲流水	吉岡孝・明子 あるケアマネのつぶやき O.S.K	思いは笑顔になって…作業療法士今野裕美	交流会	研修会に向けて 和川次男

『文字盤』お譲りします！  
文字盤をお探しの方は、宮城県支部までご一報ください。無料で文字盤をお譲りします。大きさは、縦32センチ、横46センチ、重さ約222グラムです。ひらがな46音と濁点、半濁点の他、「はい」、「いいえ」、「吸引」、数字を表示しています。スペースに余裕があるので、よく使う言葉をご自分で追加することもできます。

文字盤は、指さし、または瞬きや視線による意志疎通に最適な手段です。煩雑な手順はありませんので、お気軽にお使いいただけます。

ご希望の方、文字盤についてお悩みの方は奥付に記載している宮城県支部事務局までお気軽にご連絡ください。



日本ALS協会宮城県支部の会報「ゆつける」に、みなさんの声を聞かせてください。日常のこと、疑問、不安、楽しみ、ほんのちよつと誰かに聞いて欲しいこと、今月号の感想、苦情などなど。また、本誌上であなただの作品（絵・短歌・俳句・小説…）を紹介してみませんか？

左に記載してある住所、またはアドレスまでお送りください。楽しみにお待ちしております。

発行 日本ALS協会宮城県支部  
宮城県支部長 和川次男  
〒980-0011  
宮城県仙台市青葉区上杉4丁目6-46(安部)  
E-mail: tsugio-hatsumi@agate.plata.or.jp(和川)  
発行 2007年9月

タイトル『ゆつける』は、  
仙台弁で「結ぶ」という意味です。

表紙絵・小野寺利昭

# 研修会に向けて

脳波スイッチ マクトス作成

ALS患者 和川次男

私は ALSと20年近く

『守り 守られ 生かし 生かされ しあわせに生きております。』

私は ALSではありませんが

『自分の命は 自分で守る』という意識と覚悟で生きてきました。

呼吸器を着けて、社会で生きるには

『我が家で起きることのすべては、自分達の責任の元に生きる。』

事故 災害時、再発防止のため原因を追求しますが、

『誰かを責める事も お互いを責める事も 自分を責めることもしない。』

そのための備えは必要に応じてする。

参加者の皆様には

患者家族を 『あまり 煽らず』

『あまり 焦らず』

『あまり 急がず』

患者家族が、自ら必要性を意識して、自ら備えていきますよう導いて頂きたい。

平成19年7月11日





# 平成19年度交流会

平成19年7月16日(日)交流会が

行なわれました。泉ボタニカルガー

デンで行なう予定でしたが、梅雨明

け前の不安定な空、前日の大雨で、

残念ながら外ではなく、松田病院の

ホールで行なうことになりました。

患者さん10名を含め、総勢47名の

参加！で、広いホールもあっという

間にいっぱいになりました。全員が

自己紹介をし、久しぶりに顔をあわ

せた方々は、いたるところで話がは

ずんでいました。

おそらく今までの行事の中で、参

加患者数が過去最高！ 記念撮影を

ぎゅうぎゅうと並んで行ないました。

お昼ご飯に美味しいお弁当を食べ、

午後は全員でいろいろな話をしま

した。

薬のこと、体交(たいこう・体位交

換)のこと、外出のこと、リハビリの

こと、コミュニケーションのこと等々

いろいろなことが話題に上がり、多

くの方と意見交換をする事が出来

ました。自分の行なっているリハビ





リについて紹介してくださった方も有り、皆で一緒に身体を動かしたり、音楽療法に関しては、結果「カラオケはいいリハビリになる」という



意見にまとめ、次回はカラオケをするのもいいかしらという話になったり、終始にぎやかに会が進んでいきました。

天気が悪い為に、屋内になってしまい、計画していた内容どおりには出来なかったところもありましたので、時間が残ってしまっかなあと思っていたのですが話は尽きず、3時まで皆さん熱心に情報交換されていきました。名残惜しいところでしたが、「次回は総会で会いましょう」と約束し、閉会となりました。総会では交流会の写真をお渡しする予定でいます。たくさんの方の総会へのお越しをお待ちしていますね。また元気でお会いできることを楽しみにしています。





# 思いは笑顔になっで〜

## 作業療法士 今野裕美

皆さんはじめまして、私は「訪問看護ステーションすぽっと(名取市)」の作業療法士の今野裕美です。

先日(7月22日)に開催された宮城支部交流会で、初めて会に参加させて頂きました。天候による予定変更もありながら、参加されていた皆さんのイキイキとした表情が何より印象的な会でした。

私は日頃、訪問リハビリという形で自宅にお邪魔をしてリハビリを実施させていただいています。やはり、その時間だけでは伺い知ることの難しい「それぞれの生活」「それぞれの思い」があると感じさせられたのです。

当たり前のように「生活リハビリ」という言葉を用いる事が多くありますが、その中に求められるモノは何か：常にその思いに寄り添える

OTでありたいなあ…と、強く思わせてくれた一日でした。

ここで、いつもの私の姿ですが：ALSの方の訪問リハビリは、現在二名(鈴木様、沼田様)のお宅に伺わせて頂いています。今回は、鈴木淳様のお宅で呼吸リハビリをしている所も写真にしてみました。

先日お会いした方は既に承知かと思いますが、私は身長177センチのかなりビックサイズな訳です。通常はこの私がベッドに上がり、痰を出す訓練も行っています。(今回の写真は、胸の音を聴診触診して呼吸の具合を確認している所です)

いつも一通りの呼吸リハビリが終わると、奥さんやヘルパーさんに「カサカサッと乾いた感じの痰が手前まで上がっているようです…」とか「ゴボツと音がしたので後一時間位したら、まとまった痰がひけそうな感じですが、その時にもう一度吸引をしてみてくださいね」等と伝える事が多くあります。この微妙な表現でこちらの意図する細部までご理解

下さる奥さん、ヘルパーさん、看護師さん、本当に有難うございます。

常に「伝わりやすいように…」と留意しつつも、まだまだですね。

これからも沢山の事を共有して、分かり合って、一緒に進んで行きたい！と思っています。(理解に苦しみそうな擬音の表現は減らすようにします)

沢山の時間、沢山の笑顔に寄り添えますように…

思いを込めて…  
これからも皆さん、どうぞ宜しく  
お願い致します。







吉岡 孝・明子

縁あってALS協会宮城支部の事務局のお手伝いをさせていただくことになりました。

先日、ALS協会宮城支部の交流会に夫婦で初めて参加させていただきました。

そして、改めて命の大切さを再認識し、そして患者家族の皆様の前向きな生き方に接し、多くのことを学ばせていただきました。

ボランティア 吉岡孝さん 明子さん

未だ、ALS患者家族、関係者を取り巻く環境、実情の認識不足の点多く、戸惑いも感じております。今後私ども夫婦でできる事がありませんでしたら、積極的にお手伝いさせていただきますと思っています。今後とも宜しくご指導のほど、お願い申し上げます。

## あるケアマネのつぶやき

つづき

O.S.K

在宅介護力を補うために、介護保険、ヘルパー派遣事業、介護人派遣制度等さまざまなサービスがありますが、利用上の制約や対応事業所が少ないことで、まだまだ充実した介護体制とは言えないと思います。

サービス計画を作成するに当たり、ご家族の負担軽減を含め、いろいろと可能であると思われるサービスを考えますが、制度上の不備はもとより、今必要としている課題解決に対する行政の対応もスムーズにはいかないことが多くあります。

日々の業務に追われ、種々の法令や規則等を詳細に調べる時間もなく(この辺はお役所の担当の方々にも、もっと勉強してもらいたいと感じることがありますが)、自分の勉強不足を痛感しています。

介護保険制度の基本的な目標として8つ示されていますが、他の制度と比較した場合に介護保険制度の大きな特徴であると謳っていました。その基本目標は今どこ? もっと「利用者本位」の臨機応変な対応を希望しております。

ケアマネージャー O.S.Kさん



# 残照

## 行雲流水

### 1 私の病気のいきさつ

(1)平成17年2月  
歩行時左足がペタペタ音を立てるのを自覚。

(2)4月

左足指動作不全・左足首下垂を自覚。

(3)5月

総合病院3、個人病院1にて順次検査実施、結果病名不明。

(4)平成18年4月

某病院検査入院、診断結果ALSを得る。

(注)私：昭和17年生まれ、男

### 2 現状

(1)程度

ア身体障害者2級 イ介護2級

(現在初回6カ月審査判定待ち)

(2)投薬

アALS関係：リルテック・メチコパール・ユベラック

イ血圧関係：テオバン・カスマリン・トローワート

ウ胃関係：アルサ・ラニタック

(3)進行

昨年は杖を使用して外出が可能でしたが今年に入り不可能になりました。立ち上がりもままならなくなりました。左手も握力が10kg以下となり動きが不自然と

なってきました。

(4)リハビリ

アデイケア：月・水・金の週3回

足腰ストレッチ：上・下半身ひねり・両腕後方そらし・平行棒内歩行2m×1.5

往復×4回(1回毎に休憩)

イ自宅：週4、5回程度自主トレ、但し適当に。

奇数日：上半身を中心に8種類のストレッチ(含む腹式呼吸)

偶数日：下半身を中心に8種類のストレッチ(含む腹式呼吸)

(5)移動

ア外出時：車(妻運転)＋車イス(妻押送＋自走)

イ家の中：歩行器＋手摺歩行(立ち上がり・歩行時妻介助)

### 3 楽しみ

(1)以下退職したら楽しもうと思っていたものが不可能になりました。

ア登山：北・南アルプスで登山し残した山  
あるいは地方名山の登山

イ四国八十八カ所：半年から1年かけての徒歩行脚

ウ海外旅行：外国の歴史・文化の実感と民意の体感

(2)今は次の3点を楽しみにしております。  
ア読書：デイケアでの約3時間(主たる傾向 歴史・政治 科学 軍事)

イ就寝前：インターネット、DVD・TV・

### CD鑑賞

ウその他：物理メカニズムの考察、カラオケ(主たる分野 演歌 軍歌 童謡)

### 4 残照

若干の起伏はあったものの62歳までほぼ凡庸な、取り立ててこれと言った事もない人生を平穩に送れた事を感謝しております。晩年にてかかる病気になるのは残念ですが、退職後発病というのは見方によっては不幸中の幸い、しようがないとあきらめの境地です。しかし頭の中ではこの状況を受け入れていてもその時はジタバタするのだろうかと思ったりもします。わけもなく状況に流されてゆくのもイヤなので次の3点を達成するまでは絶対この世にしがみつくと決意しました。目標達成の頃にはそれなりの年齢になっているでしょうからその時はできるだけこやかに笑って「お迎え」について行きたいと思えます。これらの目標を勝手に我が人生の「残照」と名付けました。

(1)習得：自学自習による英会話の習得。

(2)考案：物理メカニズムの工夫とモデルの完成。

(3)その他：89歳の母にできるだけ長生きして貰い母を見送る。

### 5 所感

この病気になって色々な経験をしました。この病気に罹らなければ分からなかつ



たであろう事も見えてきたように思います。これは私にとっていい経験になりました。疑問に思った事や要望もたくさんありました。例えば

### (1) 疑問・要望 病名診断

総合病院3、個人病院1に順次1年近く通って検査したのに病名不明。以下愚案。

縦軸に症状を、横軸に病名を列記し該当部分に○×を付けマトリックスを作成。臨床学的に○×に重みを付けコンピュータでAIスキル活用すれば診断ソフトが出来る筈。以後サンプルで信頼度を高めていけばよいと思います。(ある要因がある病気で発現する可能性の強弱の積み重ねの判定)

### 投薬

ALSには現在リルテックのみが有効薬として認められておりますが、保険薬以外でもつまり自己負担を覚悟すれば利用できる薬があることを知ったのが最近。制限があり手数がかかるとは言え可能性のある薬は試してみたいのでそういった情報をどんどん流して頂ければと思います。

### (2) 感謝

ALSが判明して以来病院の先生方には懇切丁寧に説明・指導いただきました。ALSに関する病理学的臨床学的知見の現状からして十分に説明いただいたと思っております。

この病気に関する行政システムには感

謝すべき事が多々ありました。窓口の方々も親切に対応いただいております。行政上の限界に不満を感じる事はあるもののサービスの仕組には満足しております。またこの病気になるって知ったのは「人のやさしさ」です。決して「渡る世間は鬼ばかり」ではありませんでした。たくさん思いやりや親切に出会いました。

### 座席

まだバスや地下鉄に乗れた時の事です。杖をついて乗ると席を譲ってくれる人がたくさんおりました。多分仕事で疲れているであろう席を譲ってくれた人々、感謝々でした。

### 転倒

雨の日仙台駅前で杖をついて歩いていて転倒した時の事。4、5人の人が駆け寄って来て抱き起こしてくれました。自分の服を汚しながらです。そして最後まで心配してくれました。

### 雨傘

歩行器で歩いていた雨の日の事。相合傘を楽しんでいた若いカップル。何のてらもなくスツと差し出してくれた雨傘。日本の若者もまだまだ捨てた物ではないと思った事でした。

### 環境

私が生まれた時代・国・両親・兄弟・家族どれをとっても自分は幸せでした。この病気の事を考慮に入れても幸せの分量の方がはるかに多いからです。思い至れば何

時も幸せが心に満ちて来るからです。

### 母

89歳の母は小生の身体を心配し週3回お灸をしてくれます。食物・湯治の事等経験に基づくとアドバイスは豊富で的確です。本来こちらが親孝行しなければならぬのに親不幸で申し訳ない事です。

### 家族

小生の傲慢さ故妻とはいさかいが多かったのですがこの病気になるって以来妻の優しさが身にしみる様になりました。入浴介護やマッサージ更に股関節の悪い自分を省みず車椅子を押し、毎日寝室を整えてくれる妻には感謝の気持ちで一杯です。妻を見習って娘も更に優しくなり介護を手伝うようになりました。

### 6 最後に

現在私を取り巻くケアマネージャー、訪問リハビリやデイケアのスタッフには皆真剣にかつ優しく面倒を見ていただき感謝しております。和川さん始めALS協会宮城県支部の皆さんには交流の場・情報交換のチャンスを与えていただきありがとうございます。参考になる事が多々ありました。「幸せは自分の心の有り様に有る」と言いますがそれでもこんなに多くの皆さんに支えられ幸せをいただいている事を付け加えさせていただきます。ありがとうございます。



# A・L・Sに携って 私の思うこと

訪問介護ステーションまめしば  
ホームヘルパー 荒木久美

家庭の医学書には「A・L・Sは病気の進行により予後は不良、末期は寝たきりになる。」と書いてあります。寝たきりの状態になりながら、5年10年と家庭で生活していらっしやる方々と出会いました。医学書に書かれていない世界を、生きている人々です。1日のうちの数時間ですが、共に過ごせることがとても嬉しいです。1日1日生命を輝かせて、生きている人達から、私自身が大きなパワーをいただけるのです。実際介護していくなかで、その人独自の工夫された介護方法を学びながら、介護の奥深さを知りました。コミュニケーションの大切さも学びました。文字盤やマクトス(意思伝達装置)

を、積極的に介護に取入れる事は、信頼関係を築く上で欠かせないので。より質の高い介護を目指すなら、信頼関係を築かなければなりません。常に型通りの介護ではなく、その人の状態に合わせて、気配り心配りが求められるのです。もしこの病気の方々や御家族と出会っていなかったら、私は今でも自分勝手な思いで、介護の仕事をしていたと思います。人任せではなく、自分の人生を堂々と生きていらっしやるA・L・Sの方々の姿は、本当に美しいです。私も自分の人生を大切に生きたいと、強く感化されました。教え、教えられ、支え、支えられ、A・L・Sに携わるさまざまな立場の方々と、共に成長して行きたいと思っています。A・L・Sにはスタッ



フ皆のチームワークが大切なので、ヘルパーという仕事の難しさと同時にやりがいを感じながら、仕事をさせていただいています。これからもよろしく願います。



# 心も体もポツカポカ、安全第一 訪問入浴

アサヒサンククリーン

看護師 佐藤由美子

人工呼吸器を装着しながら、ゆったりと入浴出来るのは、在宅で行う「訪問入浴」ならではのことだと思います。

私個人の感想ですが、病院では、アンビューバックを使用し、シャワー浴程度のケアしか行えなかったのが、初めて訪問入浴に関わった時、『普通に湯船に入れるんだ!!』と、感動しました。その時の感動を胸に、常に『より安全に！より安楽に!!』と考えて、入浴介助に努めています。当社では、H8年からALSの方の入浴介助に携わってきました。当初は、御家族から教わる事がほとんどで、改良を重ねながら徐々に基本的な作業手順というものを作り上げました。

まず、「人工呼吸器を装着しながら入浴する」というのが大きなポイントになります。呼吸器の型、呼吸器・吸引器の配置を確認し、入浴スペースを確保します。浴槽までの移動方法も様々です。病状の進行に合わせた移動方法を考えます。頸部・四肢に脱力がある為、関節の保持は確実に、安全に移動しなければなりません。

次に、コミュニケーションです。ベッド上では、パソコン操作が可能でも、入浴中にパソコンは使えませんので、事前に打ち合わせをします。文字盤を使用する。まばたきでYES。眼球を動かすでYESなど。

かゆいところに自然に手が届く様になるには、繰り返し訪問する事が必要になります。基本の手順はありますが、ADL(日常生活活動：生活を営む上で不可欠な基本動作すべてを指し、これを評価すること)で生活自立度を表現する。)や生活環境が様々なので、個々に合せた手順を考えています。

今日まで、人工呼吸器のトラブルなど様々な出来事がありました。その経験が前進につながっていると思います。緊急事態に的確に対応する為、技術を磨かなければなりません。日々、勉強!!です。

なによりも御家族の協力がなければ、前進出来ません。もっと、もっとと発展していきたいと思しますので、今後とも宜しくお願いします。





# 東北大学での講義

平成19年5月28日(月曜日)、日本

ALS協会宮城県支部支部長の和川さんご夫妻が東北大学医学部の講義にゲストスピーカーとして参加しました。医学部生に対し、ALSと共に生きることを伝えることのできるまたとない機会となりました。

妻のはつみさんによると、「引き受けていたものの、夫の体調がなかなか整わず心配しておりましたが、何とか講義の1週間前ほどからお散歩もできるようになりました。」

講義はまず、次男さんが事前に脳波のスイッチで作成したメッセージを伝え、それに添って妻のはつみさんより詳しい説明がされました。

以下は講義内容の抜粋です。

## 講義にむけて

### (脳波のスイッチ マクトスで作成)

ALS患者 和川次男

私は、ALSと幸せに生きています事をお伝えしたく伺いました。

私がALSを発症しました頃は、私にとりましても、家族にとりましても明日が見えない日々でした。何もかもゼロの状態から、生かし、生かされ、生きてこれました事に感謝です。本日こうして皆様とお会いできます事は、日本の医療と福祉、そしてALS患者家族とALS患者を支え応援して下さる人々の温かい想いの賜物です。

将来の日本の医療を支えていく皆様に、ALSが生きる姿を記憶して頂きまして、ALSには『何かを施す医療から、見守る医療が必要で

ある』事をお伝えしたいと思います。全国のALS患者家族の一番の願いであります、ALS原因解明と一日も早く治療薬が出来ます事を切にお願いします。

## 患者にとつての医師と医療

ALS患者 和川次男の妻

はつみ

夫がALSを発症した20年余り前、ALSを取り巻く医療者の殆どがALSをあまり理解しておらず、ましてや呼吸器を装着して生きるALS患者をどのように受け入れ対応していったら良いのか分かる人も殆どいませんでした。また、老人制度にも障害者制度にもあてはまらない難病患者が生きる為の制度も全くなく、長期入院できる病院もなく、まさに医療からも行政からも見放された思いでした。

呼吸器を装着した夫が自らをさげ出す事で『一人でも多くの人にALSを正しく知って欲しい』という強い願いのもとに行動を起し、同時にALS患者が生きる環境整



備を多くの支援を受けながら一つずつ形にしてみました。

20年あまりのALSとの闘病で出会いました、我が家にとっての素敵で自慢の医師を紹介します。

11年前、呼吸器を装着して5年目に胆石の手術を下さいました。麻酔科医と外科医。「呼吸器を装着したALS患者の手術の症例も事例も発表もない」と言いながらも手術を下さいました。お陰様で私達はALSと幸せに生きる事を知るまで辿りつくことができました。

3年前に白内障の手術を下さいました眼科医。夫はまぶたを開け、見たいものは何でも見えてきましたが、はつきり見ることが出来なくなりました。息子の結婚が決まり可愛いお嫁さんを見たい、息子の幸せな姿を見たい、と眼科医に伝えて手術を承諾して頂きました。息子の結婚は夫の目と心にすべてやきつける事ができました。

耳鼻科医は15年間も往診して下さいております。眼科医、皮膚科医、泌尿科医、どの医師も快く往診して下さいます。

最後に紹介させて頂きます医師は、私達ALS患者家族の生き方に添いながら必要な医療を提供し、ALS患者の生活を理解し受け入れて下さいました。私達を尊重し、限りなく謙虚に耳を傾け続けて下さる往診専門の医師と医院との出会いは、私達はもとよりALS患者家族にとって最高のプレゼントです。

今から11年前、平成8年のことです。それまで不可能だと思われていた事にも挑戦できました。呼吸器を装着しての飛行機の旅や、ALS患者達との旅行、お花見、いも煮会、海紅葉狩り、私達がしたいと思うことには協力を惜しまず叶える方向に力を尽くして下さいます。

『私達にとって最高の医師と医療』といえます。

目線をかえて、ALSを通して其々

の人生と生き方を理解して、見て、聞いて、受け入れて下さる事はそう簡単なことではないと思います。ALS患者のように治療法がなく、どんどん進行していく難病者にこそ、病と共に命を全うするその日まで寄り添いながら見守り応援し続けて下さる医師が必要であると思います。ALSとの出会いが限りなく残酷であっても、ALSを通して出会う人たちは限りなく温かくあって欲しいと強く願います。

### 講義終了後

#### 脳波のスイッチによるコミュニケーション

講義終了後、次男さんのコミュニケーションの手段として利用している脳波スイッチの『マクトス』を使い、次男さんとコミュニケーションをとってみました。普段と違う環境で上手く出来るか心配しましたが、本番に強い次男さんは妻のはつみさんの読み上げる50音に合わせて合図をしました。

『かんしや』



# 第十回

# 菅英三子さん

# クリスマスチャリティー

# コンサート開催



今年も十二月二日(日)青年文化センター・シアターホールにおきまして、菅さんのコンサートを開催します。毎年楽しみにしている方も多いこのコンサートは、菅さんご自身が日本ALS協会宮城県支部支援のために企画運営からチラシ作成までの一切を行って下さっています。

このコンサートの収益金は毎年菅英三子さんが日本ALS協会宮城県支部へ全額寄付してくださっています。

菅さんの優しい歌声に包まれて、幸せなひとときをお過ごしいただければ幸いです。

【チケット問い合わせ】 022(712)4371(安部)

## ◆菅英三子さんプロフィール◆

仙台市出身。京都市立芸術大学、ウィーン国立音楽大学をいずれも主席で卒業。世界各国の国際コンクールにおいて多くの賞賛を得ている。

一九九一年のデビュー後、オーストリア、ドイツ、スペイン、アメリカ各国でのオーケストラとの共演、音楽祭への出演など欧米各地での活動とともに、日本国内でもNHK交響楽団をはじめとする全国の主なオーケストラの演奏会にソリストとして出演。幅広い演奏活動を行っている。

公式HP <http://cortefelice.jp/>



「参加は何人でもいい、リタイアコンサート」 菅さんは長年コンサートの後援を、五十八人の合計を加えて華やかに、一人で、ALSを知り、実行委員会の顔合わせトを一人の企画、名義で、唱けて歌った。合唱練習も九月三日から始まる。既に三十七人です。家族のために、だ。歌おうという気持ちの方。十数人が集った。昨年、七月末の夜、仙台市青葉区松ヶ丘のコンサートで合唱を歌った。主会場に、パイオル、月三日、副題を「菅英三子」理解と応援を上げた。七月末の夜、仙台市青葉区松ヶ丘のコンサートで合唱を歌った。主会場に、パイオル、月三日、副題を「菅英三子」理解と応援を上げた。年文化センター(青葉区)ファンクラブの会員、菅さんの音楽仲間、亡き父、選んで、有志の参加を募文化センター・シアターに菅さん、誰よりも、さんとの和やかな笑顔が、降志さんが牧師を務めた。つたのは昨年、少女のころから大好きなヘンデルを響かせる。十年の思い出にしている。あつた。初めて、今年設、仙台北教会(青葉区東勝)から大好きなヘンデルを響かせる。十年の思い出にしている。けた(クリスマス・チャ)山の友人もいる。「メサイア」(救世主)を、弦楽とトランペ

仙台市出身のソプラノ歌手菅英三子さん(右)。舞台を巡る日々の中、古里で仲間とはぐくむ集いがある。十二月に催す筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の支援コンサートに、歌と浄財を贈る活動は十年目を迎えた。

(編集委員・寺島英弥)

## 菅英三子さん ALS 支援10周年







日本ALS協会宮城県支部の機関誌「ゆづける」の表紙を花の絵で飾ってきた小野寺さん。今年のコンサートも楽しみ」と洋子さん「泉区

# 街 いま

第10回チャリティーコンサートに向け発足した、菅さん（前列右から2人目）と仲間たちの実行委員会＝仙台市青年文化センター



## 歌声安らぎ患者の励み「来年も…」

ソプラノの、心にしみなく音です」と、菅さん「コンサートの歩みは重なる音楽に、やすらぎのほかに語り掛けた。小野寺さんは働き盛り時、時はずかに流れ、小野寺さんは働き盛り時、患者の小野寺利昭さんの九六年に発症し、そのの楽しみ、短歌の感動は、えいてののがチャリティ（五ヶ丘）地区。IIが子、年の限支部結成に加わった。変りませんと妻の洋子さんが、筋肉が弱り、聴いて、詠んだ短歌。始くよつになつた花の絵で、絵も描けなくなつたが、二万五千円、当初は五十万ほど、の売り上げ、最近では百万円を超えるようになった。歌を終えた後、菅さんはその場で患者たちへ機械音も「命をつ

## 心つなぐコンサート広がる輪

ALSは体の筋肉を動かし、呼吸が難しくなる難病だ。依籍されたコンサートもできなくなる難病だ。米田でルー・ゲリットの病の名がある。菅さんが知ったのは一九九七年、日本ALS協会宮城県支部主催のコンサートへの出演依頼が機縁だった。「ちよと下キエメンタリーの番組を見たので、病身でアイガモ農法のコメつくりにも、患者が厳しい選択を迫られた。家族の介護負担を思い、命の綱となる人工呼吸器を着けない人が七割という。一緒に頑張ろう。わたしが倒れたらあきらめよう」と、八十二年、第一回チャリティーコンサートだ。

8月11日(土)河北新報夕刊に取り上げられました。

寄付者 加藤久美子様 深瀬きみ子様 鎌田喜二郎様・三枝子様  
ご寄付ありがとうございます。





**BiPAP® Synchrony®**  
(米国レスピロニクス社製)  
 業事承認番号:21200BZY00613000



**BiPAP® harmony®**  
(米国レスピロニクス社製)  
 業事承認番号:21600BZY00394000



**LTV®950**  
(米国バルモネティックシステムズ社製)  
 業事承認番号:21500BZY00042000



**PLV®-100**  
(米国レスピロニクス社製)  
 業事承認番号:2B輸801号

フジ・レスピロニクスの **在宅人工呼吸器レンタル** **徹底した安全重視**

**導入時**

- 機器の仮納入と介護者のトレーニングのお手伝い
- 療養者宅の環境アドバイス
- 退院時の機器の搬入・設置

**フリーダイヤルで24時間緊急対応**

- 時間外・休日24時間の電話相談と緊急対応

**定期点検**

- 3か月ごとの機器点検と主治医への結果報告

**フジ・レスピロニクスは  
 チーム医療の一員としてサポートいたします。**

**フジ・レスピロニクス株式会社**

[www.fuji-respironics.com](http://www.fuji-respironics.com)

本社 〒113-0034 東京都文京区湯島1-5-32

- |       |        |   |
|-------|--------|---|
| 北東北支店 | 盛岡営業所  | 〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ4-3-17 みたけビル1F TEL.019-643-1380  |
|       | 弘前営業所  | 〒036-8093 青森県弘前市城東中央5-4-25 TEL.0172-29-4335         |
|       | 八戸営業所  | 〒031-0073 青森県八戸市売市4-11-9-101 TEL.0178-73-7327       |
|       | 秋田営業所  | 〒010-0951 秋田県秋田市山王5-12-29 TEL.018-883-5157          |
| 南東北支店 | 仙台営業所  | 〒981-3213 宮城県仙台市泉区南中山1-28-18 TEL.022-348-2761       |
|       | 山形営業所  | 〒990-0025 山形県山形市あこや町3-9-21 サカノビル3F TEL.023-627-6551 |
|       | 福島営業所  | 〒960-1101 福島県福島市大森字西ノ内88-2 TEL.024-544-6761         |
|       | 郡山営業所  | 〒963-8852 福島県郡山市台新1-32-2 ロイヤル台新111 TEL.024-995-4331 |
|       | いわき出張所 | 〒970-8026 福島県いわき市平字愛谷町4-8-1 TEL.0246-35-1062        |



**Homecare Ventilator**



**Hospital Ventilator**



**Sleep Diagnostics/CPAP**



**Respiratory Care**